

令和5年度 愛媛県 英語教育改善プラン

目標

「言語活動を通して」資質・能力を育成する授業改善を通じた、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童の育成

1. 現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CAN-DOリスト形式の学習到達目標の整備

	R3	R4
設定	76.0%	97.8%
公表	25.5%	97.8%
把握	57.2%	97.8%

②授業時間の50%以上で言語活動を行っている学校

	R3	R4
	90.7%	92.4%

①『「言語活動を通して」資質・能力を育成する』ことへの理解不足

②教員が感じている、自身の英語力に対する不安の軽減

③小中連携した学習到達目標などを設定している中学校区

	R3	R4
	6.3%	12.6%

2. 分析

①CAN-DOリストの役割とその重要性、作成・活用の仕方等についての講義・演習・協議

②授業改善、単元計画等作成、授業実践及び実践事例作成等のサポート

- ・英語教育推進リーダーによる授業動画の配信
- ・英語授業改善推進連絡協議会
- ・英語授業カブラッシュアップ研究協議会
- ・教育課程理解促進研修 等

①②学習指導要領の趣旨、今求められている英語の授業のイメージを浸透させるための効果的な研修の不足

①②英語指導の経験不足に由来する指導及び教員自身の英語力への不安や日々の業務の多忙さ

③自校の学習到達目標の設定及び活用に関することだけに焦点を当てた研修に終始

3. 施策・事業

◎「2.分析」を踏まえた、事業実施の留意点

①②①「英語授業改善推進リーダー養成事業」

県内の英語授業改善を推進する新しいリーダーを養成するとともに、県内英語教員の指導力向上を図る。

ア 英語授業改善推進リーダー養成連絡協議会（年3回）

イ 指導訪問及び公開授業

◎ CAN-DOリストを踏まえた単元目標の設定、目標の達成に向けたより効果的な単元計画の立案と実践など、今求められている英語の授業を具現化し、県内はもとより、全国への普及を目指す。

①②①②③「英語授業カブラッシュアップ研究協議会」

（3年計画3年目）

効果的かつ多様な指導方法等について研究・協議し、今求められる授業改善について提言することを通して、県内英語教員の指導力向上を図る。

ア 委員 小学校の代表1人、中学校の英語担当教員

イ 日数 管内別各3日（小中合同開催）うち1日は分科会別公開授業

◎ CAN-DOリストの活用方法、校区内の小中学校間の連携について、より効果的に進められるよう、講義・協議の内容を工夫する。

①②「先導的なオンライン研修実証事業」の活用

文部科学省の事業を活用し、指導に必要な英語を学びながら、実際に授業で活用することを通して、英語力と指導力の向上を図る。

◎ 英語学習の機会を提供するとともに、受講者同士の情報交換会の開催なども含め、受講者のサポートを行いながら進めていく。

②県教育委員会主催による「TOEIC L&R IPテスト」の実施

英語学習の成果を確認する場を県教育委員会が提供する。

○ 一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組

ア 加点制度

教員採用選考試験において、小学校教員受験者のうち、次の資格等を有する者に対して、前期第1次選考試験及び後期選考試験の合計点に加点する。

・英検1級、準1級相当の高い英語力を有する者

・中学校（英語）免許状保有者

イ 大学等説明会

一定の英語力を有する者への加点について、教員採用選考試験説明会で重点的に説明する。

ウ ホームページでの啓発

令和2年度に新たに開設した「愛媛県教員採用情報ホームページ」に一定の英語力を有する者への加点についての説明を掲載する。

令和 5 年度 愛媛県 英語教育改善プラン

目標

「言語活動を通して」資質・能力を育成する授業改善を通じた、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりする生徒の育成

CEFR A1相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 50%

1. 現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CAN-DOリスト形式の学習到達目標の整備
- | | H30 | R3 | R4 |
|----|---------|---------|-------|
| 設定 | 81.5% > | 100% > | 100% |
| 公表 | 1.5% > | 42.2% > | 97.6% |
| 把握 | 30.8% > | 70.3% > | 99.2% |
- ②パフォーマンステストの実施回数
- | | H30 | R3 | R4 |
|----------|--------|--------|------|
| S | 2.6回 > | 3.8回 > | 5.0回 |
| W | 2.4回 > | 2.8回 > | 4.0回 |
| S・W両方実施校 | R4 | 98.2% | |
- ③CEFR B2相当以上の教員
- | | H30 | R3 | R4 |
|--|---------|---------|-------|
| | 46.8% > | 49.6% > | 55.6% |

- ①CEFR A1相当以上の中 3 生
- | | H30 | R3 | R4 |
|--|---------|---------|-------|
| | 39.2% > | 46.7% > | 47.6% |
- ②授業時間の50%以上で言語活動を行っている学校
- | | H30 | R3 | R4 |
|--|---------|---------|-------|
| | 77.9% > | 71.2% > | 72.4% |
- ③『「言語活動を通して」資質・能力を育成する』ことへの理解不足
- ④小中連携した学習到達目標などを設定している中学校区
- | | H30 | R3 | R4 |
|--|--------|--------|-------|
| | 1.5% > | 6.3% > | 12.6% |

2. 分析

- ①CAN-DOリストの役割とその重要性、作成・活用の仕方等についての講義・演習・協議
- ②授業改善、単元計画等作成、授業実践及び実践事例作成等のサポート
- ・英語教育推進リーダーによる授業動画の配信
 - ・英語授業改善推進連絡協議会
 - ・英語授業カブラッシュアップ研究協議会
 - ・教育課程理解促進研修 等
- ③資格取得に向けた講座の実施
TOEIC L&R IPテストの実施

- ②③学習指導要領の趣旨、今求められている英語の授業のイメージを浸透させるための効果的な研修機会の不足
- ④自校の学習到達目標の設定及び活用に関することだけに焦点を当てた研修に終始
連携を深化させていくことを目指した研修等の不足

- ①求められる英語力を身に付けさせるための授業改善が不十分

3. 施策・事業

◎「2.分析」を踏まえた、事業実施の留意点

- ①②①②③④「英語授業改善推進リーダー養成事業」
県内の英語授業改善を推進する新しいリーダーを養成するとともに、県内英語教員の指導力向上を図る。
- ア 英語授業改善推進リーダー養成連絡協議会（年3回）
イ 指導訪問及び公開授業
- ◎ CAN-DOリストを踏まえた単元目標の設定、目標の達成に向けたより効果的な単元計画の立案と実践など、今求められている英語の授業を具現化し、県内はもとより、全国への普及を目指す。
- ①②①②③④「英語授業カブラッシュアップ研究協議会」
（3年計画3年目）
効果的かつ多様な指導方法等について研究・協議し、今求められる授業改善について提言することを通して、県内英語教員の指導力向上を図る。
- ア 委員 小学校の代表1人、中学校の英語担当教員
イ 日数 管内別各3日（小中合同開催）
うち1日は分科会別公開授業
- ◎ CAN-DOリストの活用方法、校区内の小中学校間の連携について、より効果的に進められるよう、講義・協議の内容を工夫する。
- ③②③「先導的なオンライン研修実証事業」の活用
文部科学省の事業を活用し、指導に必要な英語を学びながら、実際に授業で活用することを通して、英語力と指導力の向上を図る。
- ◎ 英語学習の機会を提供するとともに、受講者同士の情報交換会の開催なども含め、受講者のサポートを行いながら進めていく。
- ③②③県教育委員会主催による「TOEIC L&R IPテスト」の実施
英語学習の成果を確認する場を県教育委員会が提供する。
- ①生徒対象「英語力向上講座」
民間英会話教室と連携し、CEFR A1（英検3級）相当以上の英語力を身に付けさせるための講座を作成し、オンデマンド配信する。

令和 5 年度 愛媛県 英語教育改善プラン

目標

英語授業改善や、学習評価の妥当性及び信頼性を高めるため、有識者等を活用した情報提供、好事例の横展開を図るとともに、外国語指導助手の増員など、充実した英語学習環境の整備を行うことなどにより、生徒の英語力向上を図る。（CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する高校 3 年生の割合 50%）

1. 現状

改善が進んだ点

- ① 必履修科目における、スピーキングテスト及びライティングテスト両方の実施率
- | | |
|-------|-------|
| R3 | R4 |
| 38.8% | 71.6% |
- ② 生徒の英語力（CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する高校 3 年生の割合）
- | | |
|-------|-------|
| R3 | R4 |
| 48.2% | 49.0% |

未だ改善が必要な点

- ① 授業における、英語担当教師の英語使用状況（発話の半分以上を英語で行っている割合）
（R4:43.7%）
- ② 授業における、生徒の英語による言語活動の割合（授業中、半分以上の時間、言語活動を行っている割合）
（R4:46.2%）

2. 分析

- ① 学校訪問研修、英語教育フェスタ（～R4）等の研修会において、パフォーマンステストの実践事例について共有・横展開を図り、研究協議を実施したことによる。また、パフォーマンステストの確実な実施に向けて、外国語指導助手を増員したことによる。
- ② 研修会等の参加者が、同研修会で提供された情報や実践事例を、所属校のほかの英語担当教員と共有し、授業や学習評価の改善が図られたことによる。また、各校において、生徒の対外発信能力を高めるため、外国語指導助手の積極的な活用が図られたことによる。

- ① 生徒が英語に触れる機会の充実を図り、授業を実際のコミュニケーションの場面とすることができていないことによる。
- ② 知識・技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用し、繰り返し思考・判断・表現することを通して獲得させる授業づくりをすることができていないことによる。

3. 施策・事業

◎「2. 分析」を踏まえた、事業実施の留意点

【高校生英語発信力育成事業】

- ① ② 英語授業ブラッシュアップ研修
- ・対象：全ての県立高校及び中等教育学校から英語担当教員 1 名
 - ・内容：英語教育に係る有識者等による講義及び喫緊の課題の解決に向けた研究協議を実施する。
- ◎ 好事例の横展開を図る。
- ② 外国人講師等による英語力向上講座
- ・対象：全ての県立高校及び中等教育学校
 - ・内容：各校において、県内在住の外国人等を講師として、生徒の総合的な英語力向上等に関する講座を開催する。
- ◎ 英語の堪能な地域人材の活用を図る。
- ② オンライン語学留学
- ・対象：参加希望生徒 40 名
 - ・内容：希望者を対象に、海外大学等による英語習得プログラム（5 日間）に参加させ、英語による高度な発信力を有する生徒の育成を図る。
- ◎ 1 人 1 台端末等を活用した海外との交流を図る。

【英語ディベート・コンテスト開催事業】

- ① ② 英語ディベート指導研究委員会
- ・対象：県立高校及び中等教育学校から 25 名の教諭を委員に指名
 - ・内容：技能統合型の言語活動、即興性を伴う言語活動を活性化するための指導方法の研究を行う。
- ◎ 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を意識した研究とする。
- ② 英語ディベート・コンテスト
- ・対象：県内の高校及び中等教育学校から希望者（24 チーム）を対象とする。
 - ・内容：4 人 1 組によるトーナメント方式での英語によるディベート大会を開催する。優勝・準優勝チームに全国大会出場権を与える。

【外国語指導助手招致事業】

- ① ① 外国語指導助手の配置
- ・充実した英語学習環境の整備に向けて、県立高校及び中等教育学校で指導する JET-ALT を増員する。
 - ・R2 … 10 名増員により合計 24 名配置
 - ・R5 … 10 名増員により合計 34 名配置